

第16回・第2期第7回宝塚市協働のまちづくり促進委員会 会議録	
開催日時	平成29年2月24日（金）18:30～20:30
開催場所	宝塚市役所3階 特別会議室
次 第	1 開 会 2 議事録 協働のまちづくり促進委員会(第15回・第2期第6回)議事録 協働の仕組みづくり検討部会(第10回・第2期第4回)議事録 3 議 事 (1) 地域自治の推進に向けての今後の取組について (2) 協働の仕組みづくり検討部会からの進捗報告 4 その他 無作為抽出による審議会等の公募委員候補者登録制度について 5 閉 会
出席委員	久委員長、足立委員、飯室委員、成瀬委員、熊澤委員、久米委員、古泉委員、古村委員、木村委員、中山委員、原田委員、檜垣委員、溝口委員、石谷委員、高松委員、立花委員
開催形態	公開（傍聴人2）

1 開会

第16回・第2期第7回宝塚市協働のまちづくり促進委員会の開会。

事務局から、本日の委員出席者数は16人、欠席者は3人であり、宝塚市協働のまちづくり促進委員会規則第5条第2項に規定する過半数の出席要件を満たしているため、会議が成立していること、及び傍聴希望者は2人であることを報告した。

2 議事録

協働のまちづくり促進委員会(第15回・第2期第6回)議事録及び協働の仕組みづくり検討部会(第10回・第2期第4回)議事録については、修正等の意見がなく、議事録(案)をホームページに掲載することを委員が了承した。

3 議事

(1) 地域自治の推進に向けての今後の取組について

事務局から「宝塚市住民自治組織のあり方に関する報告書」を受けてまとめた市の地域自治に関する取組(決定)について、前回提示した案からの変更点を中心に説明を行った。

→委員全員が了承した。

(2) 協働の仕組みづくり検討部会からの進捗報告

現在、まちづくり協議会運営のためのガイドライン策定に向けて、作業を行っている作業班から、進捗状況報告があった。その後、審議が行われた。

- ア 裏表紙のマップについては、地域の方に確認してもらった方がいいのでは。
- イ マップの中に駅や神社仏閣などのスポットを目印として入れてはどうか。
- ウ 概ね小学校区と言いながら、マップには、愛称だけが記載されていてわかりにくい。マップだけでなく、一覧表も入れてはどうか。
- エ ページ番号が横にあり、わかりにくい。下の隅に入れてはどうか。
- オ このガイドラインが発行されると自治会軽視ではないか、という意見が出るのではないか。
- カ まちづくり協議会の活動は、自治会がなければ運営できない。
- キ【会長意見】「住民自治組織のあり方に関する報告書」には、まちづくり協議会の中核は自治会と明確に記載されている。そのため、決して自治会軽視はしていない。
- ク 平成11年発行の「創造と発展」は、平成15年に一度改訂されたが、その後、改訂されていない。「創造と発展」には、まちづくり協議会の位置付けが記載されていない。しかし、今回、このガイドラインが出ることにより、まちづくり協議会の位置付けがはっきり明記されることになる。
- 出た意見を踏まえて、引き続き、作業班で話し合いを行うことになった。

4 その他

無作為抽出による審議会等の公募委員候補者登録制度について

政策推進課より制度の概要について説明があった。出た意見は以下のとおり。

- ア 3,000名を無作為抽出とあるが、どのように選んだのか。
- イ【政策推進課】まちづくり協議会ごとに一定数を情報政策課でバランス調整しながら抽出した。
- ウ 今回、概要を説明されたが、協働のまちづくり促進委員会にどこまで意見を求めようとしているのか。
- エ すべてを無作為でやるのか。
- オ【政策推進課】すべてではない。審議会には、選出区分があるので、もちろん専門的な知識を持つ知識経験者もいる。今回導入する無作為抽出で市民の皆さんの声も聞きたい。
- カ【会長意見】尼崎市のまちづくり基本条例策定の関係で懇談会があった。メンバーは、半分が市民からの無作為抽出で選ばれた人だった。無作為抽出は、これまで市政に関心のなかった人も関心を持つきっかけ、新たな入口を作ることができる。実際、そのような感想も参加者から言われていた。
- キ【会長意見】市民調査アンケートの結果、無作為抽出の対象者3000人のうち、関心のある人は170人と説明があった。一般的には、全体の3%が関心ある人であると言われている中、宝塚市民としては、関心が高いのでは。

5 閉会